



動交付金を活用させていただき助かっている。また、市の危機管理課からアルファ化米や地元市民から食材を提供していただいたり、赤い羽根募金へ申請しお菓子を提供してもらい運営している。

〈だれでも食堂に対する考えや想いについて聞かせてください〉

・子ども食堂はこうあるべきという形はない
 と思っている。テレビでは、朝も夜も食べ

させて預かりをしているところや、特定の子ども達を対象として食べさせているところがある。けれども、ここでは決められた形ではなく『だれでもいらっしやい』という昭和の時代の気軽な雰囲気でも今後も開催していきたいと思っている。

・お餅を焼く時に、子どもに火おこしを体験させる。一緒にお餅を焼いてみる。そんな体験が少しでも防災につながればいいなと思っている。

・活動することを自分が楽しんで、利用する人達が笑顔になってくれたら嬉しい。

〈行政や議会・民間団体に期待することはありますか？〉

・ヤングケアラーなど子どもらしい生活のできていない現実が報道されるたびに身につまされる思いを感じます。食堂で参加者と触れ合っただけでは実態は解かりません。

しかし行政においては、私たちが踏み込めない部分の背景を知ることができると思っています。是非、そういった人たちを助けていただきたい。

・子ども食堂は毎日やらないと意味がないという意見もあるが、ただの主婦が恵まれない方を集めて毎日活動をしていくのはおせっかいのし過ぎだと思っています。この部分は行政が積極的に手を伸ばしていくべきであると思います。



・赤い羽根の共同募金から25人分のお菓子をいただきますが、足りないためお寺のせんべいなどをあわせて提供しています。子ども達はお菓子をもらって大変喜んでくれます。議会に対しては、目に見えない貧困の子ども達が『子どもらしい生活を送れるように』地域の情報を知り、よりよい方向となるように活動して欲しいです。

ご協力ありがとうございました。

〈取材協力〉

セカンドライフマスターズクラブの皆さん